

令和 6 年度 学校関係者評価実施用紙（まとめ用）

学校番号	24	学 校 名	静岡県立伊豆の国特別支援学校	校 長 名	松本仁美
------	----	-------	----------------	-------	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	評価項目	自己 評価	関係者 評 価	意見
安全・安心①	生命の尊さや人とのつながりを大切にし、一人一人の良さを受け入れ、互いを思いやる心の醸成	各学部の経営計に基づき、児童生徒の命が守られていると答える教職員や保護者	B	B	・トラブル発生時の対応スピードが今後の課題であると思う。
		信頼できる教職員に向けて、自身の行動を振り返ることができた教職員	A	B	・わずかな時間でしかありませんが、先生方の熱意を感じ取ることができた。 ・教職員間の情報共有の仕組みを強化するとよりスムーズな対応が可能になると思う。
安全・安心②	命のつながりを実感する食育の推進	給食室と連携し、安全な給食提供ができたと答える教職員及び保護者	A	B	・Cが1%いる理由、要員の深掘りはされてはどうか。良いことよりも、できなかった理由の精査が重要と思う。 ・連携という疑問が残る気がします。 ・子供たちが主体的に食に関わる仕組み作りを考えてはどうか。
		食と各教科等の関連を意識した指導をした教職員	B	B	・生徒が献立を考える機会を作る。 （例えば地域食材を活用したトマトやとうもろこしを使ったメニューなど。）
安全・安心③	児童生徒の命を守る安全教育の充実	緊急時の対応や防犯防災訓練をとおして、児童生徒の安全を守る行動を身につけた教職員	B	B	・この結果は素晴らしいと思う。教職員の皆さんの主体的に考え、行動する意識の現れだと思う。 ・年間に数度の訓練を行っており、より実情に合ったものを模索していることがわかった。 ・通常の防災訓練などは整っていると思うが、子供たちによる防災マップ作り、予告なしの避難訓練など、リアルな状況を想定した訓練がもう少し必要なのではないかと感じる。 ・実際の緊急事態でもパニックを減らせると考える。 ・危機管理を先生が行うのではなく自分ごととしてとらえるようにする。
専門性①	主体的・協働的・深い学びによって、資質・能力を育成する授業実践	児童生徒の学びを見取り、適切な目標設定と評価ができた教員	B	B	・この結果は教職員の皆さんの日々の忙しさが根底にある結果だと考える。 ・各先生方が創意工夫されていると思う。 ・授業に工夫が施されているのは見受けられるが、人員不足などによる教員の負担が増えている点が懸念される。 ・ICTを活用して業務効率を上げるな

様式第 5 号

					ど行ってみてはどうか。
		ラーニングマップの活用による授業づくりを行い、実践後に授業改善を進めた教員	B	B	・フィードバック（FB）をする、し合うことはnext actionに繋がると思う。ぜひ今後も、FBすることを継続してほしい。 ・授業改善の成功事例をチーム全体で共有し全員が使えるようにしてはどうか。
専門性 ②	特別支援教育の専門性の向上	障害の特性に応じた支援や学習指導要領に基づく研修ができた教員	A	B	・先生方の努力には頭が下がります。 ・特別支援のスキルはとても高いが、支援が個々の経験を頼っているように見受けられる。前述したように、成功事例を共有できる仕組み作りが必要なのは、経験に頼るのではなく、学校全体の知見を活かしてはどうか。
		PC やタブレットの活用により、授業準備の効率化や学習の定着に効果を得た教員	B	B	・KPI は達成していますが、まだまだ活用方法の工夫はあると考える。DX による業務負担軽減を今後も継続してほしい。 ・多様な生徒さんがおり、導入が難しい場合もあると思う。 ・ICT 活用には一定の効果を上げていると見受けられるが、まだ一部の教員に依存しているのではないと思う。全教員がスムーズに活用できるように、操作方法のマニュアル動画を用意してはどうか。 ・とりあえずタブレットを使うのではなく、明確な目的をもって活用する仕組みが必要と考える。
連携 ①	キャリア教育の視点で小中学部、高等部のつながりと、児童生徒の願いや夢を大切にしたい進路指導の充実	小中高の系統性を意識して指導できた教員	A	B	・横串を通すための行動をどう活性化していくかの取り組みを続けてほしい。 ・指導の流れは意識されているように見受けられるが、学部間の情報共有不足がある場合は、進学後のギャップが生じるので、進学前に授業体験・交流機会を設けてはどうか。
		児童生徒に応じた適切な情報提供や、進路指導ができたと答える教員及び保護者	B	B	・保護者の結果にもあるが、C 以下の方の教職員および保護者の連携を見直すことも良いと思う。 ・各種作業や職場体験など、生徒の将来を見据えた教育がされていると思う。 ・学部間の引継情報の統一化を行うことにより、児童ごとの成長記録に活用できるのではないかな。

様式第 5 号

連携 ②	保護者や地域住民との協働を推進し、地域と共に歩む学校づくり	各学部において、適切な交流を計画し、地域に貢献できたと感じる教職員	B	B	・今年度、「地域」というテーマを掲げて活動した成果であると思う。 ・さらに地域住民が関わり易い仕組みがあると相乗効果が生まれ、職業体験の機会が増えていくと考える。
		地域を活用した学習活動をととして、児童生徒が意欲的に学んだと感じる教職員及び保護者	B	B	・公民館清掃など、ありがたく思う。 ・各種イベントに積極的に参加をする。 地域に支えられる学校ではなく、地域とともに育つ学校へ進化させてみてはどうか。
チ ー ム 学 校 ①	特別支援学校のセンター的機能の充実及び関係機関との連携の強化	センター的機能による成果の整理及び検証	B	B	・支援の成果を定期的に整理検証する仕組みが十分に確立されていないのではないかと。 ・どの支援が有効だったのかデータを蓄積して、より効果的な支援を提供できるようにしてはどうか。
		学校内外の情報共有と、支援会議やケース会議等での案件の整理及び成果の検証	B	B	・支援案件ごとの進捗を一覧化し各会議での議論をスムーズに進められるようにし、また情報の重複をなくし会議の時間を課題解決に、集中できるようにするのはどうか。
チ ー ム 学 校 ②	教職員一人一人が責任をもった業務遂行と、やりがいを感じる働き方の推進	キャリアステージと自己目標シートに基づき、自身の役割を理解して経営に携わった教職員	B	B	・概ね、結果は問題ないと思うが、目標設定の内容・方法・腹落ち度で結果が大きく変わる項目だと思う。
		計画的な業務遂行のために努力し、働き方を改善できた教職員。	B	B	・PDCA をどう回していくのかが、ポイントとなる項目だと思う。 ・経験年数の少ない教職員にとって、具体的な目標設定や経営参画のイメージがつきにくい。 ・「経営に携わる」とは具体的に何をするのかを明確にする。